

宮腰(金石)港の歴史

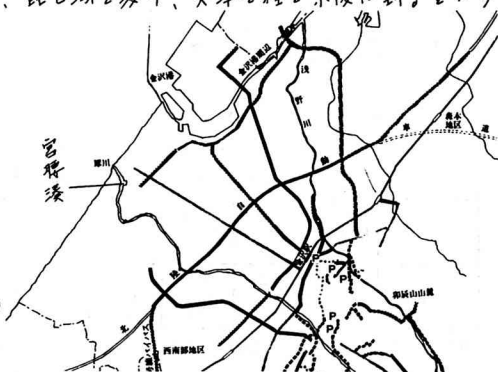
金沢工業大学 正員 中川武夫

金沢工業大学 学生員 〇江口和弥

金沢工業大学 喜多一世

1. 発展の背景

加賀藩における海運は天正十一年(1583)の前田氏の入部以後にみそその重要性を増してきたが当時の上りとの交易には越前・敦賀・三國を経由し、琵琶湖を渡り、大津を経て京阪に到るという中世以来のルートがとられていた。そして金沢と宮腰港(Fig.1)との間は金石往還を通して物資の往来が行われていた。ここに金石往還と金沢の広田口と宮腰港との間を連絡する5km余のFig.2に示したような直線道路が元禄二年(1616)に三代藩主前田利常が存続の詔、港手石衛門に命じて造らせたものである。藩政整備期に入ると、寛永七~八年(1630-1631)の金沢城の修築、寛永九年(1632)の辰巳用水の施工、寛永十六年(1639)以後の小松城の補修等の大型土木工事が相ついで行われていた。

Fig.1 宮腰港周辺の地理¹⁾

3) 西廻航路の開拓以後、加賀藩の大阪・江戸廻米は敦賀・三國の中途を要しなくなったが、依然として上り船依存度が高く、おおむね上り船欠乏、地船四分の割合であったといわれる。なお、西廻航路の開拓時期について諸説があるが、ここでは寛文十二年(1672)の河村瑞賢による西廻出帆米廻漕かきであると考えおくことにする。

Fig.2 金石往還(石川果史より複製)²⁾

すなわち、宮腰港の発展は加賀百万石の大台所を維持して、Fig.2 金石往還(石川果史より複製)がなければならぬという藩の要請と、その外港の道地としての地理的条件とに負うてこそが大いだったものと見ることができよう。

2 宮腰港のありまし

4) 宮腰港は古くは濠洲海運船の出入のための所であったと伝えられている。ただし、当時の港域Fig.1に示したような現在の場所にはなく、二か所沖へ数里あったところであったと考えられている。藩政期に入ると宮腰港は加賀藩の外港として藩から厚い保護を受け、寛文三年(1663)すでに十五才以上の船入夫四百数人を有し、大阪・江戸・北海道などとの交易が盛んに行われていた。ここは、幕末における銭屋五兵衛の活躍によって宮腰の名が全国に知れわたると同時に、この地における海運業の発展を促した。銭屋五兵衛は宮腰をその根據地として中韓、ロシア等

外国との交易をすると同時に、關西・東北・北海道にあった諸港との間を米・雜貨の移出、木材・海産物の移入を主とした海運を基盤に行なった。

Figs.4と5はそれぞれ現在と藩政期の宮腰港の状況を示す。

Fig.6にはFig.5の右半分の拡大図を示したが、この図から藩政期の宮腰港が犀川の河口（犀川の尻）と金石往還（田中、縦の太い黒線）との交点付近にあり、港は現在のように港湾構造物はなく自然の砂浜が船の泊地として用いられていた状況が推察される。

宮腰港は東側に三百間（約500m）、南北に二十間（約35m）程度の広さで、港内には船舶の進退上の障害となるような暗礁や砂洲はなかったようである。干潮時の港内水深は四尺（約1.20m）余であり、操船には西南風が容易で、東北風の時はこちらに難しかった。港付近の浪による海岸の侵食作用は現在と同様に、藩政期においても激しく、海岸線は年々後退していったと伝えられている。大型船舶の泊地には、前述のように港内の面積が限られていたため、港の外側沖にある泊地が用いられていたのが常であった。たとえば、明治時代に数万吨級の軍艦が来港した時にはその泊地が港から沖合約一里のところにあったという。

明治元年の記録によれば宮腰港の船舶保有数は五百石積以上二十隻、五百石以下百八十五隻と漁船等は百八十五隻であった。明治初期の鉄道万能時代に宮腰港は一時衰退したが、明治中期には樺太・大連・朝鮮及び青森地方での大量の木材取引によってその復興を見た。また、この時期に防波堤の築造、沿岸の不正寄附の砂防林造営等の港の整備も行なわれた。さらに、昭和九年四月には大正十一年内務省令第6号による指定港湾に編入された。そして、昭和十九年に大野港と合併し、鹿沢港の一部となり現在に至っている。

参考文献

- 1) 金沢市新長期計画 1974 - 1985 金沢市編。
- 2) 石川県史 第五編 昭和八年三月 石川県編。
- 3) 佐藤元重 風土記經濟史「北陸」 昭和四十二年二月。
- 4) 金石町史 昭和五十五年三月 中崎善治朗編
- 5) 鈴木繁岐 銭屋五兵衛の研究。

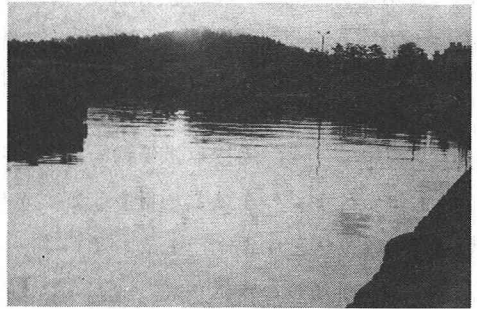


Fig.3 宮腰（金石）港内（撮影：江戸昭和5年）

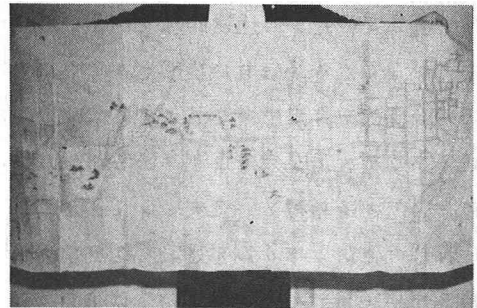


Fig.4 藩政期・宮腰絵図（鹿沢市立図書館蔵）

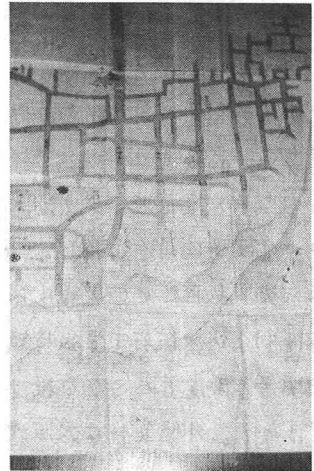


Fig.5 藩政期・宮腰絵図
(Fig.4の右半分の拡大図)